2019
Vol.13

ISSN 1882-5273

東京未来大学研究紀要 Tokyo Future University Bulletin

東京未来大学

東京未来大学研究紀要

第13号

2019年（平成31年）3月

東京未来大学研究紀要 2019 vol.13
目　次

原著

乳幼児の遊びの始まりに関する研究
—0歳児クラスの事例から—
浅井かおり・浅井拓久也（1）

大学生の結婚観、および子育て観について
—自身の被養育体験、父母との関係性、対象関係に着目して—
井梅由美子（11）

「福祉ミックス論」はどこからきたのか、その背景と主張
—これからの日本の社会福祉のあり方について考える—
上田　征三・金　　政玉（23）

数学学習における学習者の聴く活動の固有性についての考察
—コンピュータ的思考との対比を手掛かりとして—
紙本　裕一（35）

アタッチメント・スタイルがネット依存傾向にもたらす影響
川原　正人（45）

次年度クラス担任希望に表出される保育者の主体的な選択の要因
金　　瑛珠・片川　智子（55）

幼年文学における食べ物の描かれ方をめぐって
—「たべもののおはなしシリーズ」を中心に—
佐々木由美子（65）

大学生のためのリメディアル英語教材の研究
執行　智子・宅間　雅哉・大島　　幸・舩田まなみ・カレイラ松崎順子（75）

遠くを見ると気分は安らぐ？
—焦点距離と頭部の上下の傾きが心理・生理状態に及ぼす影響—
鈴木　公啓・真家　英俊・山口　慎史・川田裕次郎（87）

美術教育における和洋の比較鑑賞の試み
—相違と共通性を意識した中学生の作品批評を通して—
髙橋　文子（93）

古英語*cōl*に水文景観が後続するイングランドの地名
宅間　雅哉（103）

震災後における保育者のストレスについて
藤後　悦子・川原　正人・須田　　誠（109）

実践報告

台北日本人学校ＮＩＥ実践２０１７
—多文化共生教育のための試み—
神部　秀一・石田　成人・所澤　　潤（117）

保育士養成課程における学生の自主的な学びに関する実践報告：
子どもの英語の歌を用いた活動
舩田まなみ・執行　智子・カレイラ松崎順子（129）

産学公金連携「雷おこしプロジェクト」報告
—足立区におけるコミュニティ・デザインを用いたキャリア教育（PBL）実践報告その１—
森下　一成（141）

研究ノート

保育者養成校に通う学生の「地域」とのかかわりの実態
—保育者養成における地域型保育教材の活用に関する基礎的研究として—
及川　留美・岩﨑　淳子・春日　保人・粕谷　宣正・金　　玟志（151）

雑誌『婦人世界』にみられる小野さつき訓導殉職の反響とその意味
佐藤　久恵（157）

瓜生岩子の生涯発達から考える保育のこころ
横畑　泰希（165）

東京未来大学研究紀要　投稿規程　(177)
紀要委員会　　編集後記　(179)
英文目次　(180)
執筆者一覧　(182)

東京未来大学研究紀要　投稿規程

2018.7.18　改正

1．本誌に筆頭著者として投稿できる者は，本学の専任教職員および非常勤講師（当該年度）とする。筆頭著者として投稿できるのは，1編のみである。

2．原稿の内容

1）原稿は，和文または英文とする。

2）原稿は未公刊のものに限る。他に投稿中の原稿も認められない。

3）原稿は原著，実践報告，研究ノート等とする。

3．原稿の体裁

1）原稿は，原則としてＡ４判，MS Word（2000以降）で作成し，A4紙に出力したものとし，併せてデータを提出する。但し，図，表，写真については，４に定める。

2）原稿には要約とキーワード（5語以内）を付す。要約は原則として，和文，英文のどちらかとし，和文400字以内，英文175語以内とする。要約に他の言語を使用する場合は，紀要委員会に検討を依頼することができる。

3）提出原稿の体裁は次の通りとする。原稿は，1ページあたり，横書きの場合，23字×39行，縦書きの場合，31字×28行を１枚とし，本文を20枚以内（2段組で10頁以内）とする。この長さに，図版等も含むものとする。英文フォントはTimes New Roman，本文は10.5ポイント1段組10枚以内とする。表題，英文表題，要約は提出時点では１枚分と見なす。1ファイルに，タイトル（和文・英文），著者名（和文・ローマ字），要約，キーワード，本文を収める。但し，図表写真等は別ファイルで提出することとする。

4）本紀要は，横書き2段組，縦書き2段組，モノクロ印刷を原則とするが，特殊な版組が必要である場合は，紀要委員会に検討を依頼することができる。

5）上記上限のページ超過，原稿用紙手書きの原稿，２色以上の印刷，用紙の特殊な指定，及び製版に特別な費用を要する場合については，執筆者の内の本学専任教員が，その費用を個人研究費，あるいはそれに準ずる資金から負担できる範囲に限って認められる。但し，執筆者に本学専任教員を含まない場合については，その扱いを，紀要委員会で決定するものとする。

6）原稿の形式，引用文献の記載は，各専門分野の慣例に従うこととする。ただし，脚注は用いない。

7）英文と英文表題は原則としてAPA（American Psychological Association）論文作成マニュアルに準拠する。

4．図，表，写真

1）提出する図，表は，原則としてMS Word（2000以降），Excel（2000以降）で作成するもの，

またはそれらに挿入できる形式のものとし，データファイルと印刷用版下を提出するほか，併せてPDFファイルも提出する。

2）写真は一色刷か多色刷りかを指定した上で，原則としてデジタルデータファイルを提出するほか，出力したものに必要に応じてトリミングの指示をする。

3）図，表，写真は本文の欄外に挿入位置を指示するか，あるいはワードファイルに挿入するものとする。図，表，写真にはそれぞれ図１，図２，…，表１，表２，…のように通し番号をつけ，必ず縮小率と天地を指定する。

4）図，表，写真の説明は，必要があれば別紙に記す。

5）提出する写真のデジタルデータは，なるべく解像度の高いものとする。

5．増刷は原則として，投稿者の負担とする。

6. 投稿された論文については，すべて査読を行う。紀要委員会が委嘱する査読者の査読結果に基づき，委員会が掲載の可否を決定する。査読は本学学内の専任教員に限らず，学外者に 依頼する場合がある。いずれの投稿についても原稿の改稿を求めることがある。

7. 英文表題，英文要約及び英文本文は，委員会が依頼する英語話者により，英文査読を行う。

8. 校正に関しては，投稿者の責任とする。

9. 提出締め切りおよび発行時期

1）投稿を希望する者は，紀要委員会が定める期日までに指定の執筆意向調査書を所定の方法で紀要委員会に提出する。

2）原稿は，電子データと紙媒体を締切日までに紀要委員会に提出する。

3）原則として年1回，毎年3月末日までに発行する。

10. 本誌に掲載された原稿の著作権は著者に帰属する。但し，本誌に掲載された原稿は，原則として本学が他の出版物・媒体で公刊することができる。

紀 要 委 員 会

委員長　所 澤　　潤
委　員　執 行 智 子
　　岩 﨑 智 史
　　川 原 正 人
事　務　馬 崎 康 臣（EM局）

編 集 後 記

本研究紀要第13号を発行いたします。論文受理日は投稿原稿の掲載が決定した日付にしてあります。

本年度も、学内外の匿名の査読者の皆様に感謝申し上げます。本研究紀要の査読制度は一昨年度初めて実施し、本年度は３年目となりました。査読には論文等の教育研究領域及び言語について専門的な知見を持つ学内外の教員・研究者に当たって頂きました。本年度は昨年度設けた査読のためのガイドラインを更新し、査読の精粗を減少するとともに、査読が執筆者にとって助言となるような性格を持つ方向性を出しました。ガイドラインは来年度以降も更新を重ね、本学の研究水準の向上に資することになります。本年度は投稿総数20篇、掲載に至ったものは18篇でした。

本年度も投稿規程に若干の変更を行いました。第10号から導入した英文査読を規程上に明記するとともに、英文と英文表題は原則としてAPA（American Psychological Association）論文作成マニュアルに準拠することも明記しました。但し、英文の執筆様式には様々なものがあるため、あくまで原則に止めてあります。

なお、お気づきのように、執筆者に関する所属情報、メールアドレスなどを掲載論考の最初の頁に集中して掲載するほか、末尾には執筆者の日本語読みを明記しています。掲載論文をインターネットサイトからダウンロードした際に、引用するための書誌情報がすべて含まれるように利便性を高めることが目的です。

投稿資格のある皆様に、そうした研究紀要の年々の積み重ねをご理解頂き、今後、本研究紀要を、教育研究の成果の公表の場として、いっそうご活用下さるようお願いいたします。

2019年３月　　紀要委員会

Tokyo Future University Bulletin
2019 Vol.13

Contents

How Children Begin Playing: A Study Based on the Observations of Children Under the Age of One
Kaori Asai and Takuya Asai 1

Investigation of Views on Marriage and Child Rearing of University Students in Japan: Study Based on Students' Experiences as Children and Their Interpersonal Relationships
Yumiko Iume 11

The Reform of Social Welfare in Japan: Issues Related to the Welfare Mix
Yukumi Ueda and Jeong Ok Kim 23

Considerations Regarding the Unique Characteristics of Listening Activities in Mathematics Learning
Yuichi Kamimoto 35

The Effect of Adult Attachment Style on Internet Addiction Tendency
Masato Kawahara 45

Nursery Teachers' Rationale for Being in Charge of a Particular Age Group: An Examination of Factors Affecting Their Individual Preferences
Young Joo Kim and Tomoko Katakawa 55

The Significance and Representation of Foods in Literature for Young Children
Yumiko Sasaki 65

Possible Use of a Digital EFL Resource for Young Children as Remedial Material for Japanese University Students
Tomoko Shigyo, Masaya Takuma, Sachi Oshima, Manami Funata and Junko Matsuzaki Carreira 75

Does Looking in the Distance Cause Positive Emotions?: The Effects of Focal Length and Inclination of the Head on Psychological and Physiological States
Tomohiro Suzuki, Hidetoshi Maie, Shinji Yamaguchi and Yujiro Kawata 87

Comparison of Appreciation Techniques of Japanese and Western Art in Art Education Through a Contrastive Discussion of Variety and Similarity at a Junior High School in Japan
Fumiko Takahashi 93

English Place-Names Containing Old English *cōl* Followed by Water Features
Masaya Takuma 103

Child Caregivers' Stresses Following Disasters: An Examination of the Experince of Caregivers After the Earthquakes in Kumamoto Prefecture, Japan
Etsuko Togo, Masato Kawahara and Makoto Suda ····· 109

Newspaper in Education Practice in the Taipei Japanese School in 2017: Trial for Multi-Cultural Education
Shuichi Kambe, Narito Ishida and Jun Shozawa ····· 117

Incorporating Elements of Active Learning in an Early Childhood Education Course: The Case of the Use of Children's English Songs
Manami Funata, Tomoko Shigyo and Junko Matsuzaki Carreira ····· 129

The 2017 Kaminari-Okoshi Project Report: Career Education Report Using Community Design Strategy in Adachi City Case 1
Kazunari Morishita ····· 141

The Reality of the Involvement in the Local Community of Nursery School Pre-Service Teachers
Rumi Oikawa, Junko Iwasaki, Yasuto Kasuga, Nobumasa Kasuya and Minji Kim ····· 151

The Analysis of the Notion of Duty: The Case of Reactions of the Readers of *Fujinsekai* to the Death of Satsuki Ono, a Primary School Teacher
Hisae Sato ····· 157

The Spirit of Childcare Examined from the Perspective of Lifelong Development of Philanthropist Iwako Uryu
Taiki Yokohata ····· 165

〈執筆者一覧〉

＊五十音順

浅井かおり	東京未来大学保育・教職センター
浅井拓久也	秋草学園短期大学
井梅由美子	東京未来大学こども心理学部
石田　成人	東京未来大学モチベーション行動科学部非常勤講師
岩崎　淳子	大東文化大学文学部
上田　征三	東京未来大学こども心理学部
及川　留美	東京未来大学こども心理学部
大島　　幸	津田塾大学非常勤講師
春日　保人	聖徳大学短期大学部
粕谷　宣正	和光大学現代人間学部
片川　智子	鶴見大学短期大学部保育科
紙本　裕一	東京未来大学こども心理学部
カレイラ松崎順子	東京経済大学現代法学部
川田裕次郎	順天堂大学
川原　正人	東京未来大学こども心理学部
神部　秀一	東京未来大学こども心理学部
金　　玟志	聖徳大学短期大学部
金　　政玉	立命館大学生存学研究センター
金　　瑛珠	東京未来大学こども心理学部
佐々木由美子	東京未来大学こども心理学部
佐藤　久恵	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
執行　智子	東京未来大学こども心理学部
所澤　　潤	東京未来大学こども心理学部
鈴木　公啓	東京未来大学こども心理学部
須田　　誠	東京未来大学こども心理学部
髙橋　文子	東京未来大学こども心理学部
宅間　雅哉	東京未来大学こども心理学部
藤後　悦子	東京未来大学こども心理学部
船田まなみ	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
真家　英俊	東京未来大学こども心理学部
森下　一成	東京未来大学モチベーション行動科学部
山口　慎史	順天堂大学大学院
横畑　泰希	東京未来大学こども心理学部

東京未来大学研究紀要　第13号

2019年３月29日　発行

編　集　東京未来大学紀要委員会
発　行　東京未来大学
〒120-0023　東京都足立区千住曙町34番12
電話 03-5813-2525
FAX 03-5813-2529

印　刷　上武印刷株式会社
〒370-0015　群馬県高崎市島野町890-25
電話 027-352-7445